

製品名: Mnk1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab14008**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	51kDa

抗原情報

遺伝子名	MKNK1
別名	MKNK1; MNK1; MAP kinase-interacting serine/threonine-protein kinase 1; MAP kinase signal-integrating kinase 1; MAPK signal-integrating kinase 1; Mnk1
遺伝子 ID	8569.0
SwissProt ID	Q9BUB5
免疫原	抗血清はヒト MKNK1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 111-160

背景

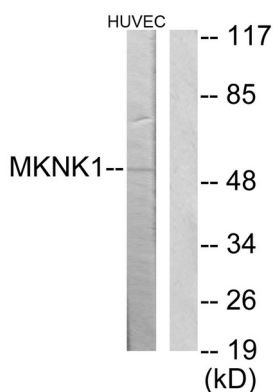
MAP キナーゼ相互作用セリン/スレオニンキナーゼ 1 (MKNK1) Homo sapiens この遺伝子は、ERK1 および p38 ミトゲン活性化プ

ロテインキナーゼと相互作用し、それらによって活性化される Ser/Thr プロテインキナーゼをコードしており、環境ストレスやサイトカインへの応答において役割を果たす可能性がある。また、このキナーゼは、eIF4G の C 末端領域との相互作用を介して eIF4E をリン酸化することで転写を調節する可能性がある。この遺伝子には、選択的スプライシングを受けた転写バリエーションが知られている。[RefSeq 提供、2012 年 1 月]、触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質、補因子: マグネシウム、酵素制御: p38 キナーゼおよび Erk 経路のキナーゼによってリン酸化および活性化される、機能: 環境ストレスやサイトカインへの応答において役割を果たす可能性がある。EIF4E をリン酸化することで転写を制御し、7-メチルグアノシン含有 mRNA キャップに対するこのタンパク質の親和性を高めると考えられています。、PTM: Thr-250 と Thr-255 の二重リン酸化はキナーゼを活性化します。Thr-385 のリン酸化はキナーゼを活性化します。、類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。、類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。CAMK Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。、類似性: 1 つのタンパク質キナーゼドメインを含みます。、サブユニット: EIF4G1 および EIF4G2 の C 末端領域と相互作用します。また、脱リン酸化 ERK1、ERK2、および p38 キナーゼにも結合します。、組織特異性: 普遍的。、

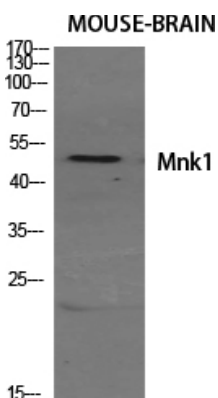
研究分野

MAPK_ERK_成長;MAPK_G_タンパク質;インスリン受容体;

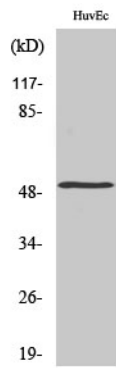
画像データ



MKNK1 抗体を用いた HUVEC 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



1: 500 に希釈した Mnk1 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析



1: 500 希釈の Mnk1 ポリクローナル抗体を用いた HuvEc 細胞のウェスタンブロット解析